

新型コロナウイルス 感染症対策について

主催者による対策

- 受付にアクリル板を設置し、飛散防止に努めます。
- 入口受付や事務局受付等、待機列が発生しうる場所に待機列サインの設置を行います。
- 入口受付にてサーモグラフィを活用して参加者の体温チェックを行います。
- 全ての参加者(主催者、出展社、来場者等)にマスク着用の徹底を行います。
※来場者がお持ちでない場合は、配布いたします。
- 入口含め、会場各所に手指用のアルコール消毒液を設置します。
- 定期的にアルコール消毒や、ソーシャルディスタンスの確保をお願いする会場内アナウンスを実施します。
- 共有スペース(休憩場等)においては、定期的な清掃・消毒を行います。
- 講演会場では、1席空けた形で席を配置します。
- 「大阪コロナ追跡システム」登録サインを入口に設置し、登録を促します。
- 会場内は常時あるいは定期的に扉を開放するなど十分な換気を行います。
- 救護室を設け、看護師が常駐いたします。

出展社の皆様への対策のお願い

- 出展社全員のマスク着用をお願いします。
- 各ブースにアルコールの設置をお願いします。
- ブース内で人が多く集まりすぎないようにするための調整をお願いします。
- 当日来場前の検温をお願いします。
※8月4日、5日の設営日は非接触の体温計にて入場時に事務局スタッフが検温させていただきます。
※8月6日、7日の当日は会場入り口にてサーモグラフィによって、検温させていただきます。
- 万が一体調不良者が発生した場合は、速やかに会場から退場頂き、事務局に報告ください。
その後、医療機関等へ受診頂き、その結果もお知らせください。
※けが等の救急箱は事務局にご用意しています。
- 当日商談や訪問したブースについては可能な限り日時・相手先担当者を記録いただくようお願いします。
- 感染予防のために筆記用具、お飲み物は各自で管理・ご用意ください。
- 以下に該当する場合はご入場をお控えいただきますようお願いいたします。
 - ・ 発熱がある時
 - ・ 咳、咽頭痛、息苦しさ等の症状が認められる時
 - ・ 保健所等の健康観察下にある時
 - ・ その他、体調が優れない時(味覚・嗅覚異常を感じる時や疲労倦怠感を強く感じる時などを含む)
- 「大阪コロナ追跡システム」のQRコードを会場に掲示しますので、ご登録をお願いします。
※右のQRコードより事前にご登録をお願いします。



来場者の皆様へのお願い

- 発熱、体調不良がある場合は来場をご遠慮ください。
- 入場、滞在期間中はマスクの着用を行ってください。未着用者様には、事務局よりマスクを配布いたします。
- 主催者が必要と判断した場合、事前の告知なしに入場を制限し、会場内への入場をお待ちいただく場合がございます。
- 「大阪コロナ追跡システム」のQRコードを会場に掲示しますので、ご登録をお願いします。

コロナ及び熱中症対応マニュアル

開催時期の気温が高いことから、コロナの感染症対策を実施することで、熱中症のリスクも高くなるかと思われます。以下入場時及び、館内において、体調不良者等が出た際の事務局としての対応を記載いたします。以下を遵守し、より安全で安心な展示会運営に努めてまいります。

新型コロナウイルス

1. 入場時の検温結果に対して以下を実施します。

37.5度以上の来場者に対しては、入場をお断りし、ご退場いただきます。

2. 会場内での体調不良及び、症状が見受けられた際に対して以下を実施します。

(頻繁に咳やくしゃみをされているや、コロナに該当する症状が見受けられる場合等を想定)

- ① 救護室とは別の専用スペースにご移動いただき、検温を実施いたします。
- ② 看護師との相談で、最寄りの医療機関を受診していただく、若しくは、鶴見区保健所に連絡し対応を確認後、関係機関の指示に従って行動いたします。

熱中症対応

●熱中症症状例

1) めまいや立ちくらみがある

めまいや立ちくらみ、顔がほてるなどの症状が出たら、熱中症のサインです。一時的に意識が遠のいたり、腹痛などの症状が出る場合もあります。

2) 筋肉痛や筋肉のけいれん

「こむら返り」と呼ばれる、手足の筋肉がつるなどの症状が出る場合があります。筋肉がピクピクとけいれんしたり、硬くなることがあります。

3) 体のだるさや吐き気

体がぐったりし、力が入らない。吐き気やおう吐、頭痛などを伴う場合もあります。

4) 汗のかきかたがおかしい

ふいてもふいても汗がでる、もしくはまったく汗をかいていないなど、汗のかきかたに異常がある場合には、熱中症にかかっている危険性があります。

5) 体温が高い、皮膚の異常

体温が高くて皮膚を触るととても熱い、皮膚が赤く乾いているなどの症状も熱中症のサインです。

6) 呼びかけに反応しない、まっすぐ歩けない

7) 水分補給ができない

●対応方法

- ① 意識の確認と行動可能かどうか確認を行い、熱中症の疑いを看護師に連絡し、救護室へスタッフが同行します。併せて飲料や体を冷やす物などの要請も行います。
※必要に応じて看護師を現場へ要請し、対応します。
※歩行困難な際は、車椅子を準備し現場へ移動します。
※意識がない場合はすぐに救急車の要請を事務局に連絡する。
- ② 看護師の指示に従い対応します。